

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：37503

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01749

研究課題名（和文）リバース・ムラバハを巡るイスラム金融ガバナンス制度比較とシャリア法遵守コスト分析

研究課題名（英文）A Comparative Study of Islamic Finance Governance Systems Concerning Reverse Murabaha and an Analysis of Shari'ah Compliance Costs

研究代表者

鈴木 泰（Suzuki, Yasushi）

立命館アジア太平洋大学・国際経営学部・教授

研究者番号：00350752

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：イスラム金融業界で急速に進展したデジタル・トランスフォーメーション（DX）の流れを受け、DXがもたらす競争の激化、特に、非イスラム銀行との競争が激化することに伴うイスラム銀行経営が抱える課題について分析を行った。イスラム銀行が貿易金融業務に比較優位を有していることを分析し、貿易金融・送金業務へ経営資源を集中させることの戦略性を提案した。イスラム銀行のガバナンス構造およびシャリア法令遵守制度分析の知見をもとに、貸し手としてのイスラム銀行の権利保護に焦点を充て、日本のメインバンク制度における貸し手としての邦銀の役割との比較を行い、イスラム銀行の抱えるリスク分析および課題を抽出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イスラム金融とは、イスラム法規範・倫理に則った金融仲介様式を指し、近年、イスラム教徒（ムスリム）人口の多い国のみならず、欧米諸国でも広がりを見せている。ムスリムは世界人口の約4分の1を占め、今世紀後半にはキリスト教徒の数を超えると言われる。本研究で、イスラム金融の制度構造分析を進めることができた。本研究の意義は、周期的に繰り返される金融不安に対し、どのような予防策を講ずることができるのか、および、イスラム金融様式を支える制度的枠組みから何を参考にできるのかを探ることにある。本研究は、今後、アジア型の金融仲介様式の合理性を巡る学術的議論に展開できると考えている。

研究成果の概要（英文）：In response to the rapid advancement of digital transformation (DX) in Islamic finance, this research analyzed the challenges faced by Islamic banks due to increased competition, particularly with non-Islamic banks. The analysis revealed that Islamic banks have a comparative advantage in trade finance operations. Based on this, this research proposed the strategic concentration of management resources on trade finance and remittance operations. Using insights from the analysis of the governance structure and Shari'ah compliance systems of Islamic banks, this research focused on the protection of lenders' rights within Islamic banks. This research conducted a comparative study with the role of Japanese banks as lenders in the Japanese main bank system, identifying the risks and challenges faced by Islamic banks.

研究分野：比較制度分析 経済思想 イスラム金融 政治経済学

キーワード：イスラム銀行 シャリア遵守 銀行レント Raf-al-haraj原則 フィンテック デジタル・トランスフォーメーション インドネシア バングラデシュ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) イスラーム金融とは、イスラーム法規範・倫理(シャリーア〔*Shari'ah*〕)に則った金融仲介様式を指し、近年、ムスリム(イスラーム教徒)人口の多い国のみならず、英国を始め、欧米諸国でも広がりを見せている。統計にもよるが、ムスリムは世界人口の約4分の1を占め、今世紀後半にはキリスト教徒の数を超えると言われる。一方で、全世界で広がりを見せつつあったイスラーム金融の制度構造分析は、本研究課題の申請時において、あまり進んでいないことが、本研究の背景にあった。

(2) 本研究課題の申請時における動機としては、周期的に繰り返される金融不安に対し、どのような予防策、処方箋を講ずることができるのか、および、イスラーム金融様式を支える制度的枠組みから何を参考にできるのかを探ることにあつた。日本は、米国型の競争的市場原理主義への盲従に反省する向きはあるものの、市場原理主義に対抗する代替の原理原則を打ち立てようとはしていない。本研究を通じ、米国型金融制度とは異なる、アジア型の金融仲介様式をデザインする議論に関わることを動機としていた。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究は、イスラーム金融様式の要ともいえるシャリーア・ボード(Shari'ah Board)の意思決定メカニズムの実態調査を、「集中型」構造のマレーシアおよび「分散型」構造のインドネシアにて行い、イスラーム金融のガバナンス構造の本質とその課題について明らかにすることを目的とした。その過程で「リバース・ムラバハ(Reverse Murabaha)」と呼ばれる貸付手法に対する両国シャリーア・ボードの解釈の違い、すなわち、同貸付手法がマレーシアでは認められる一方で、インドネシアではシャリーア法令違反(利子禁止原則の抵触)として禁止されている違いを分析することを目的とした。

(2) 並行的に、一般商業銀行がイスラーム銀行に転換したケース(バングラデシュにおいて過去2件)およびインドネシアのイスラーム銀行統合ケースを取り上げ、転換・統合後におけるシャリーア法令遵守チェック体制の実態調査と、収益性・経営効率性の変化について定量的実証分析を加え、シャリーア法令遵守コストの試算を行うことを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 「集中型」構造のマレーシアおよび「分散型」構造のインドネシアと比較分析する過程は、マレーシアがアジアにおけるイスラーム金融様式の発展を先導している一方で、世界最大のイスラーム教徒を有するインドネシアにおいては、イスラーム銀行の市場浸透が著しく低い状況にあり、対照的な発展度合いの違いの要因を明らかにすることであった。この要因を探るために、マレーシアとインドネシアとのイスラーム銀行の収益性および財務安定性の比較分析、さらに、DEA(Data Envelopment Analysis)手法による、両国のイスラーム銀行の規模の効率性およびオペレーションの効率性の計量分析、および、両国のイスラーム銀行育成のための政策(ガバナンスのガイドラインや税のインセンティブ等)の比較分析を行った。

(2) バングラデシュにおいて、イスラーム銀行への転換を行った EXIM 銀行と FSIB 銀行の経営者およびシャリーア・ボードメンバーへのインタビューを行い、転換後の組織変更、承認手続変更の実態と、現時点での課題について情報を収集し、多面的にイスラーム金融特有のコスト試算を行った。また、転換前後での収益性および財務安定性についての比較分析を行った。

### 4. 研究成果

(1) バングラデシュ一般商業銀行がイスラーム銀行に転換したケースを取り上げ、転換前後の収益性および財務安定性の推移を分析し、査読付論文として発表した。バングラデシュにおいては、概ねイスラーム銀行の収益性は一般商業銀行より高いことが知られていたが、その要因としては、イスラーム銀行に対する一定の税の優遇政策があり、イスラーム銀行のみが捕捉している超過利潤、すなわち、イスラーム銀行レントの存在とその源泉を本研究で明らかにすることができた。また、この研究の過程で、シャリーア(イスラーム法規範・倫理)遵守原則だけでは、イスラーム銀行による搾取(利子制限法を超える[高利]に相当するプライシング)の可能性は否めないことを実証し、このシャリーア遵守原則に加えて「苦痛から解放」(*Raf-al-haraj*)原則をプライシングに反映させるべきであることを、イスラーム法学の見地からも導かれることを提案した。この論文を、イスラーム金融では有数の SCII ジャーナルでもある、International Journal of Islamic and Middle Eastern Finance and Management の査読を受け、発表したところ、相応の反響があり、インドネシアおよびマレーシアのイスラーム金融学会等で keynote speaker として招待を受け、講演・質疑応答を行った。この「苦痛から解放」(*Raf-al-haraj*)原則提案はアジアのイスラーム金融学会でも注目を集めている。

(2) インドネシアにおけるイスラーム銀行の市場浸透がなぜ低いままなのかを、上述の研究方法により、マレーシアのイスラーム銀行との比較分析を行った。その研究成果を学術書 (Growth of Islamic Banking in Indonesia) として Routledge 社より出版した。イスラーム銀行を育成するための両国の政策の違いが、それぞれのイスラーム銀行が捕捉する銀行レントを含む収益性、および、財務安定性に大きな影響を与えていることを多面的に実証することができた。特に、マレーシアでは、一般商業銀行がイスラーム金融商品を取り扱うことが監督官庁から認可されている一方で、インドネシアでは、一般商業銀行とイスラーム銀行とのデマケーションが厳しく監督されている金融制度の違いを分析した。その金融監督構造の違いが、マレーシアにおいては、同国イスラーム銀行およびイスラーム金融を取り扱える一般商業銀行の規模およびオペレーションの効率性を高めた一方で、インドネシアにおいては、同国イスラーム銀行が競争力を失い、市場シェアを伸ばせなかった主要因であることを指摘した。

(3) 本研究期間中、COVID-19 の世界的感染拡大があった。本研究の中で収集してきたイスラーム銀行を中心としたバングラデシュの銀行の収益構造の変化、財務体質の変化に関するデータを解析することにより、COVID-19 の世界的感染拡大がイスラーム銀行を含むバングラデシュの銀行経営にどのような影響を及ぼしつつあるのかを明らかにした論文をまとめた。この論文を、イスラーム金融では有数の Scopus 収録ジャーナルでもある、Journal of Islamic Accounting and Business Research から査読付論文として発表した。この論文は、エメラルド社より、2022 年の Outstanding Paper として表彰を受けた。また、本研究を通じて研究を進めてきたイスラーム銀行のガバナンス構造およびシャリーア法令順守制度分析の知見をもとに、イスラーム銀行を含むバングラデシュ銀行が、本来、銀行の財務安定性を高めることを目的とするバーゼル規制 (自己資本比率規制) の規制強化に伴い、却って、収益構造や財務体質を悪化させてしまっているジレンマについて分析を行った。イスラーム銀行が、バーゼル規制下の一定の自己資本比率を維持するために、調達コストは高いものの、バーゼル規制では自己資本比率計算上、自己資本への算入が認められている劣後ローンによる借入を増やし、よりリスクの高い貸付を行っている構造を分析し、その問題を指摘した。この論文も、Journal of Islamic Accounting and Business Research から査読付論文として発表した。加えて、この研究をさらに展開させた学術書 (Implementation of Basel Accords in Bangladesh: A Case of Multiple Institutional Failures) を Springer / Palgrave 社より出版した。

(4) また、本研究期間中、イスラーム金融業界で急速に進展したデジタル・トランスフォーメーション (DX) の流れを受け、DX がもたらす競争の激化、特に、非イスラーム銀行との競争が激化することに伴うイスラーム銀行経営が抱える諸課題について分析を行った。本研究との関連では、主として、イスラーム銀行が貿易金融業務に比較優位を有していることを分析し、貿易金融・送金業務へ経営資源を集中させることの戦略性を提案した。その一方で、非イスラーム銀行も貿易金融・送金業務からの収益機会を拡大させていることから、競争はより厳しくなっており、貿易金融・送金業務に主軸を置くイスラーム銀行の育成のために政府あるいはイスラーム社会が一定の経済的支援 (イスラーム銀行レント補足機会の提供) を行うことの必要性について提議した。この研究成果として、本研究の中で収集してきたイスラーム金融に係る DX の動向とその課題について、学術書 (Digital Transformation in Islamic Finance: A Critical and Analytical View) を編纂し、自らも 2 つのブックチャプターを Routledge 社より出版した。その後、この編纂作業を通じて得た研究ネットワークを活かし、イスラーム保険 (Takaful) の DX 動向とその課題について、マレーシアの研究チームと共に論文をまとめた (現在査読中)。イスラーム保険業界におけるブロックチェーン技術の導入状況や課題に焦点を当て、実態調査を行い、オペレーション上の諸問題と課題について提言した。

(5) 本研究を通じて研究を進めてきたイスラーム銀行のガバナンス構造およびシャリーア法令遵守制度分析の知見をもとに、貸し手としてのイスラーム銀行の権利保護に焦点を当て、日本のメインバンク制度における貸し手としての邦銀の役割との比較を行い、イスラーム銀行の抱えるリスク分析および課題を抽出した。この論文では、日本のイスラーム学の泰斗であった井筒俊彦の類いまれなるイスラーム構造分析の一端を紹介し、人と神との関係が重視されるがために、人と人との権利義務関係が劣後されがちなイスラーム構造から、金融取引契約における貸し手の権利保護制度の強化の必要性を指摘した。この論文も、International Journal of Islamic and Middle Eastern Finance and Management から査読付論文として発表した。この論文は、2023 年において、イスラーム金融関連の論文として、最も引用された上位 20 の論文の中に入った。この論文の論旨は、今後、米国型金融制度とは異なる、アジア型の金融仲介様式の合理性を巡る学術的議論に展開できると考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 9件／うち国際共著 8件／うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Suzuki Yasushi、Dulal Miah Mohammad	4. 巻 n.a.
2. 論文標題 Digital transformation in Islamic finance	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Islamic Business and Finance Series	6. 最初と最後の頁 15～43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4324/9781003262169-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Yasushi Suzuki、Miah Mohammad Dulal	4. 巻 n.a.
2. 論文標題 A typology of financial business models on digital transformation (‘DX’)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Islamic Business and Finance Series	6. 最初と最後の頁 44～63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4324/9781003262169-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Miah Mohammad Dulal、Suzuki Yasushi、Uddin S. M. Sohrab	4. 巻 12
2. 論文標題 The impact of COVID-19 on Islamic banks in Bangladesh: a perspective of Marxian “circuit of merchant’s capital”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Islamic Accounting and Business Research	6. 最初と最後の頁 1036～1054
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/JIABR-11-2020-0345	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Hasan A.K.M. Kamrul、Suzuki Yasushi	4. 巻 12
2. 論文標題 “Sub-debt trap”: a real effect of an ill-design adoption of basel accord in the Bangladeshi banking industry	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Islamic Accounting and Business Research	6. 最初と最後の頁 1124～1145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/JIABR-09-2020-0298	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Yasushi Suzuki, Mohammad Dulal Miah	4. 巻 14
2. 論文標題 Shari'ah-compliant benchmark and Shari'ah-based "raf' al-haraj" benchmark on prohibition of riba	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Islamic and Middle Eastern Finance and Management	6. 最初と最後の頁 151 ~ 163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/IMEFM-11-2019-0490	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Suzuki Yasushi, Uddin S.M. Sohrab, Sigit Pramono	4. 巻 10
2. 論文標題 Do Islamic banks need to earn extra profits?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Islamic Accounting and Business Research	6. 最初と最後の頁 369 ~ 381
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JIABR-01-2017-0003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Suzuki Yasushi, Uddin S.M. Sohrab, Islam A.K.M. Ramizul	4. 巻 11
2. 論文標題 Incentives for conventional banks for the conversion into Islamic banks: evidence from Bangladesh	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Islamic Accounting and Business Research	6. 最初と最後の頁 273 ~ 287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JIABR-03-2017-0031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Suzuki Yasushi	4. 巻 10
2. 論文標題 Riba, Usury and Keynes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ICR Journal	6. 最初と最後の頁 175 ~ 188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.52282/icr.v10i2.62	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Yasushi、Miah Mohammad Dulal	4. 巻 16
2. 論文標題 Lender's position in the profit and loss sharing Islamic finance: an analytical perspective of Izutsu's hypotheses on "Islam" and "Hilm"	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Islamic and Middle Eastern Finance and Management	6. 最初と最後の頁 687 ~ 700
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/IMEFM-12-2021-0496	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

[学会発表] 計6件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Jasman Tuyon, Chia-Hsing Huang, Yasuhi Suzuki, Mohd Fahmi Ghazali Ahmad Monir Abdullah
2. 発表標題 Household Financial Wealth in Developing Countries: Behavioral and Sustainability Insights
3. 学会等名 Conference on Innovation and Integration for Development (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasushi Suzuki
2. 発表標題 Fostering trust and adding value towards a sustainable Social Finance Ecosystem: From Output to Impact
3. 学会等名 FBM UiTM International Forum Series 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年 ~ 2023年

1. 発表者名 Yasushi Suzuki
2. 発表標題 Typology of Islamic Fintech
3. 学会等名 Islamic Economics Winter Course 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasushi Suzuki
2. 発表標題 Shari'ah-compliant benchmark and Shari'ah-based 'raf' al-haraj' benchmark on prohibition of riba
3. 学会等名 Visiting Professor Series III, MARA University of Technology, Malaysia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasushi Suzuki
2. 発表標題 Shari'ah-compliant benchmark and Shari'ah-based 'raf' al-haraj' benchmark on prohibition of riba
3. 学会等名 The 17th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi Suzuki and Helal Uddin
2. 発表標題 Is Islamic Microfinance serving the poor people compare to conventional Microfinance?
3. 学会等名 日本金融学会2019年度春季大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 A. K. M. Kamrul Hasan and Yasushi Suzuki	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer / Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 214
3. 書名 Implementation of Basel Accords in Bangladesh: A Case of Multiple Institutional Failures	

1. 著者名 Sigit Pramono and Yasushi Suzuki	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 144
3. 書名 The Growth of Islamic Banking in Indonesia: Theory and Practice	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
マレーシア	MARA Institute of Technology		